

県内経済は、生産活動で持ち直しの動きがみられるが、雇用情勢は悪化が続いており、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

1. 平成21年9月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品、身の回り品など軒並み低調に推移し、4ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から中小型乗用車が前年を上回り、合計では2ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、前年水準を下回ってはいるものの、持ち直し基調で推移している。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、件数、請負金額とも前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額とも前年を下回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲住宅とも前年を下回り、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。倒産状況は、負債金額10百万円以上の倒産件数および負債総額は、前年を下回った。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率（原指数）とも、23ヵ月連続で前年を下回るなど厳しい状況が続いている。

〔消費動向・一部に明るい動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、秋物衣料が振るわなかったことに加え、飲食料品や身の回り品なども低調に推移し、合計では4ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、大型乗用車、軽乗用車が依然低迷しているものの、中小型乗用車が補助金や減税の効果から前年を上回り、合計では2ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.6%上昇し、2ヵ月連続で前月を上回った。一方前年同月比では2.2%下降し、8ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビ、冷蔵庫が好調だったものの、パソコン、デジカメ、エアコンなどが振るわず、合計ではほぼ前年並みで推移した。ホームセンターは、家庭用品、インテリア用品、園芸植物、木材塗料、ペット関連などが好調、前年を上回り推移した。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体が、シルバーウィーク効果による前月分からのシフト等により、久々に前年を上回り推移した。

〔投資動向・減少基調〕

9月の公共工事前払保証取扱は、件数は7ヵ月連続で前年を上回り、請負金額は2ヵ月ぶりに前年を上回った。8月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数、床面積、工事費予定額ともそれぞれ前年を下回った。9月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲住宅とも前年を下回り、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔生産活動・持ち直しの動き〕

8月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、生産の持ち直し基調が続く中で、80.6（前月比△1.7%）と4ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数では74.6（前年同月比△20.7%）となり、13ヵ月連続で前年を下回った。9月の大口電力販売量は、11ヵ月連続で前年を下回っているが、前年比一桁マイナスに向け本年3月以降着実に改善基調で推移している。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が2ヵ月連続で前年を下回り、負債総額も2ヵ月ぶりに前年を下回った。また、福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数、金額とも3ヵ月連続で前年を下回った。

〔金融動向・増加〕

9月末の預金残高は前年同月比+2.1%と31ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高も同+0.8%と15ヵ月連続で前年を上回った。

〔雇用動向・悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）は、23ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は、0.67倍（前月比+0.01%）となった。有効求人倍率は0.33倍（同±0%）と過去最低水準で推移しており、県内雇用情勢は厳しい状況が続いている。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		7月	8月	9月	7月	8月	9月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

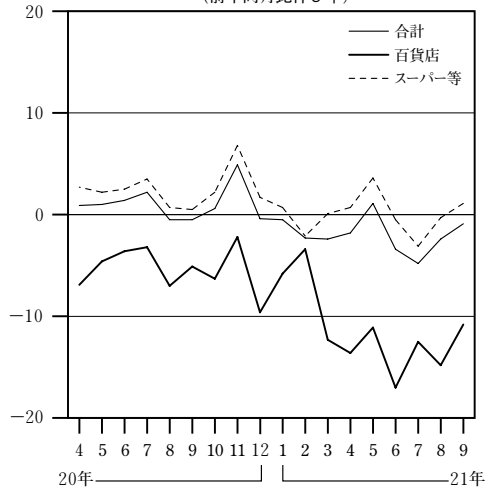
大型小売店 9月の県内大型小売店の販売額は、秋物衣料が振るわなかったことに加え、飲食料品や身の回り品なども低調に推移し、全店舗ベースで173億12百万円（前年同月比△0.9%）と4ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでは同4.9%減と10ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、身の回り品、飲食料品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで25億63百万円（同△10.8%）と、既存店ベース（同△7.0%）とともに25ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品や身の回り品が振るわなかったものの、主力の飲食料品が堅調に推移し、全店舗ベースで147億49百万円（同+1.1%）と4ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、既存店ベースでは同4.5%減と、4ヵ月連続で前年を下回った。

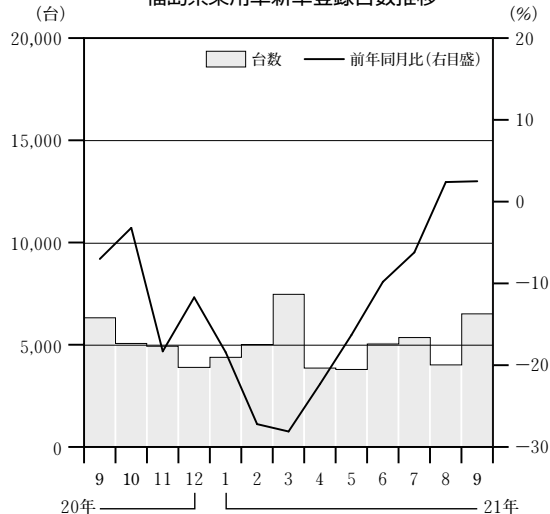
乗用車販売 9月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で6,563台（前年同月比+2.5%）となり、減税や補助金効果により2ヵ月連続で前年を上回った。車種別で見ると、大型乗用車は611台（同△13.9%）と14ヵ月連続で前年を下回っ

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

た。中小型乗用車は3,867台(同+15.9%)と2ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は2,085台(同△11.5%)と10ヵ月連続で前年を下回った。特に、中小型車の一部(1501~2000cc)で、5月以降5ヵ月連続で前年を上回るなど好調に推移している。

9月の乗用車中古車販売台数(軽自動車は名義変更を含む)は、合計で7,955台(前年同月比△15.5%)と12ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると大型乗用車は2,185台(同△20.1%)と、8ヵ月連続で前年を下回った。また、中小型乗用車は3,071台(同△14.2%)、軽乗用車は2,699台(同△13.1%)で、いずれも12ヵ月連続で前年を下回った。

消費者物価指数 9月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、101.3(前月比+0.6%)となり、2ヵ月連続で前月を上回った。前年同月比では2.2%下がり、8ヵ月連続で下降した。

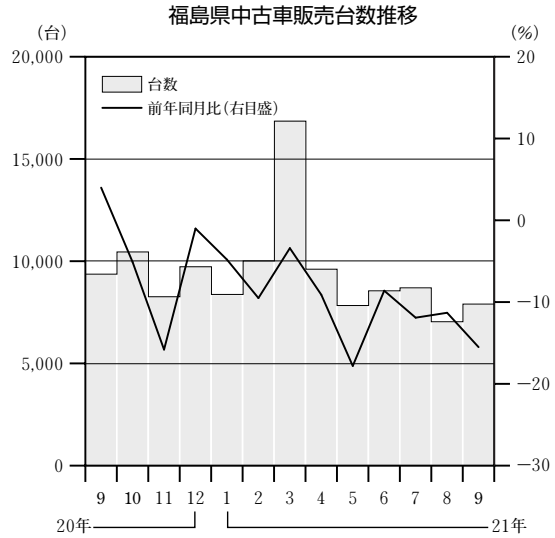
費目別の指数動向をみると、「被服および履物」が105.2(前月比+11.8%)、「家具・家事用品」が93.8(同+2.5%)、「交通・通信」が99.5(同+1.2%)、「保健医療」が98.6(同+0.5%)と4費目で前月比上昇した。一方、「教養娯楽」が96.2(同△0.7%)、「食料」が105.4(同△0.4%)、「住居」が99.2(同△0.1%)、「光熱・水道」が104.2(同△0.1%)と4費目で前月比下降した。また、「教育」は103.7で前月と同じであった。

家電量販店 9月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビ、冷蔵庫が伸びたほか、携帯電話、DVDレコーダーなども堅調に推移したものの、パソコン、デジカメ、エアコンなどは振るわず、合計ではほぼ前年並みで推移した。

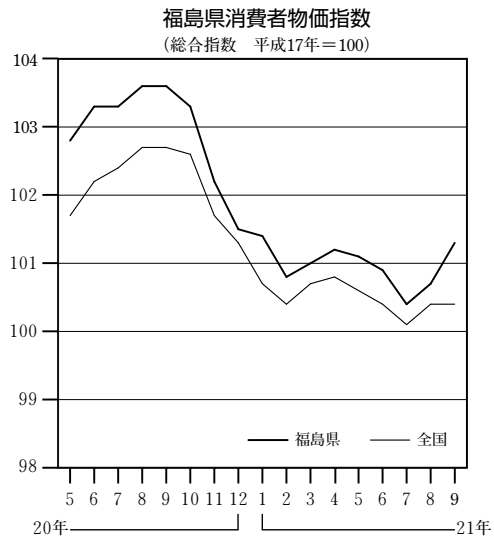
ホームセンター 9月の売上は、家庭用品、インテリア用品、園芸植物、木材塗料、ペット関連などが好調に推移し、全体では前年を上回る水準で推移した。

旅行 9月の旅行取扱額実績は、シルバーウィーク効果による前月分からのシフト等により、国内・海外の個人並びに団体とも、久々に前年を上回り推移した。

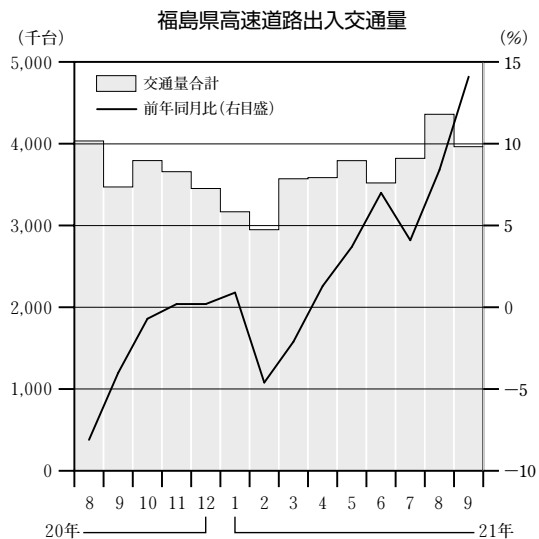
高速道路 9月の県内自動車道出入台数は、「ETC割引制度」やシルバーウィークの効果から、



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

3,976,585台（前年同月比+14.1%）と6ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,215,196台（同+5.4%）と4ヵ月連続で増加、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は264,140台（同+7.3%）と6ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は613,937台（同+29.4%）と2ヵ月連続で前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は883,312台（同+33.6%）と6ヵ月連続で前年を上回った。

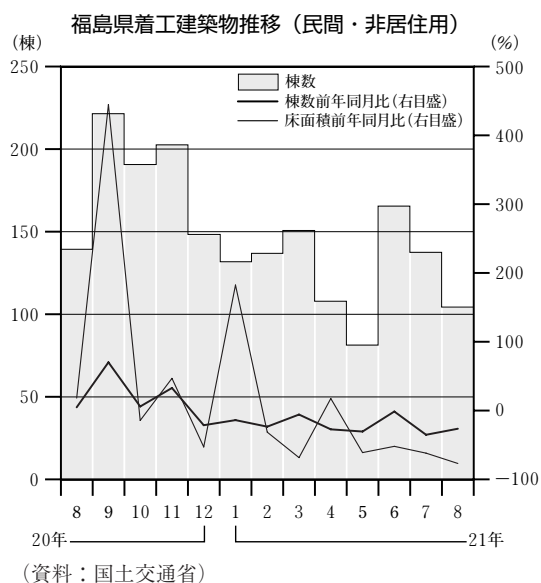
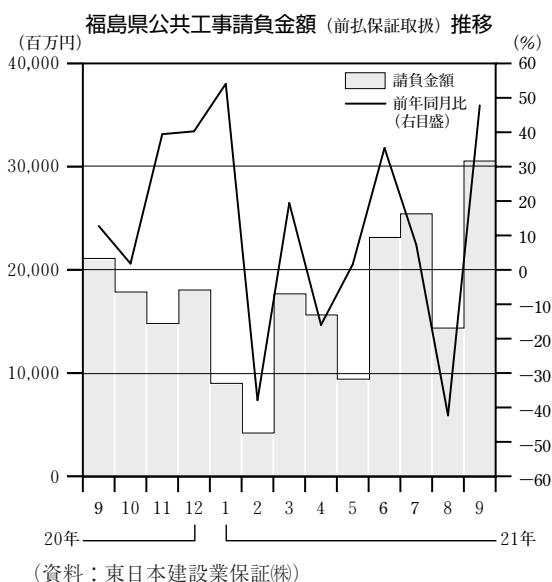
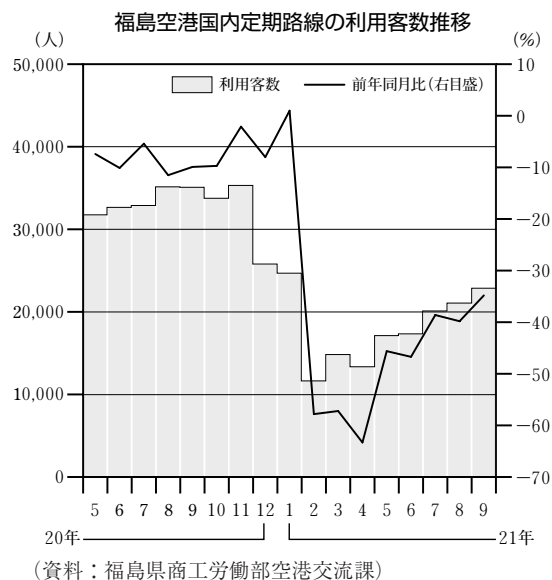
福島空港 9月の福島空港国内定期路線の利用状況は、平成21年1月の日本航空の撤退に伴う大阪（関空発着）・沖縄両路線の廃便により、22,998人（前年同月比△34.8%）と前年を大きく下回った。路線別にみると、札幌便は12,315人（同△2.0%）と11ヵ月連続、大阪便は10,683人（同△34.9%）と21ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は、3,859人（同△43.0%）と11ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみるとソウル便は2,736人、上海便は1,123人となっている。

—— 投資動向 ——

公共工事 9月の公共工事前払保証取扱は、件数が905件（前年同月比+21.5%）と7ヵ月連続で前年を上回った。また、請負金額は305億43百万円（同+45.4%）、保証金額は119億13百万円（同+44.0%）となり、それぞれ2ヵ月ぶりに前年を上回った。

なお、年度累計（2009年4月～9月）では、件数が前年同期比556件増加し、3,652件（前年同期比+18.0%）、請負金額が同34億6百万円増加し、1,185億16百万円（同+3.0%）、保証金額が10億99百万円増加し、444億91百万円（同+2.5%）となっている。

9月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比53億71百万円増加し、84億89百万円（同+172.3%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路（株）など）は同5億14百万円増加し、9億34百万円（同+122.4%）となった。県は同1億9百万円減少し、93億67百万円（同△1.2%）となった。市町村は同37億96百万円増加し、113億46百万円



(同+50.3%)となった。

設備投資 8月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が105棟(前年同月比△25.0%)と2ヵ月連続で前年を下回った。床面積は23,493㎡(同△75.5%)、工事費予定額は24億67百万円(同△84.7%)となり、それぞれ4ヵ月連続で前年を下回った。

9月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、685件(前年同月比△16.1%)と12ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物(一定規模以上の建築物が対象)が139件(同△27.6%)、4号建物(小規模な木造・非木造住宅などが対象)が546件(同△12.5%)と、それぞれ12ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は12件と前月比2件減少し、2ヵ月ぶりに前月を下回った。

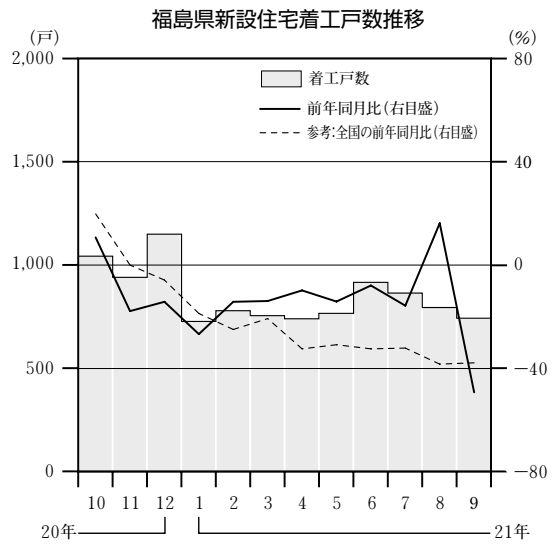
建築物着工の先行指標である9月の建築物申請件数は、659件(同△18.7%)と11ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は130件(同△29.0%)と4ヵ月連続で前年を下回った。4号建物は529件(同△15.8%)と11ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は12件と、前月比5件増加し2ヵ月ぶりに前月を上回った。

住宅建設 9月の県内新設住宅着工戸数は、742戸(前年同月比△49.2%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は405戸(同△44.0%)と2ヵ月ぶりに、「貸家」は296戸(同△41.4%)と3ヵ月ぶりに前年を下回った。「分譲住宅」は40戸(同△82.8%)と3ヵ月連続で前年を下回った。分譲住宅のうちマンションの着工戸数は、6ヵ月連続でゼロとなっている。

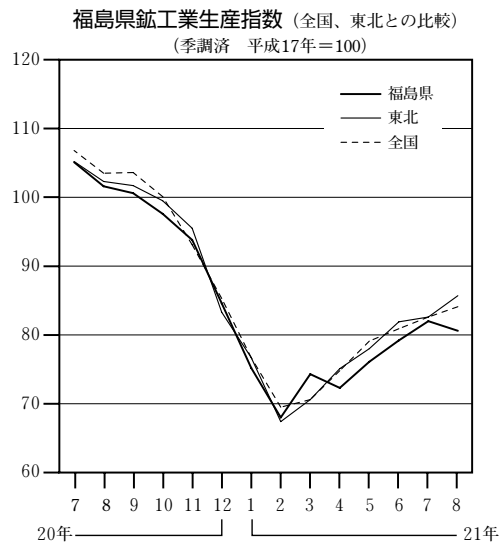
生産活動

鉱工業生産指数 8月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると80.6(前月比△1.7%)となり、4ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数は74.6(前年同月比△20.7%)となり、13ヵ月連続で前年を下回った。

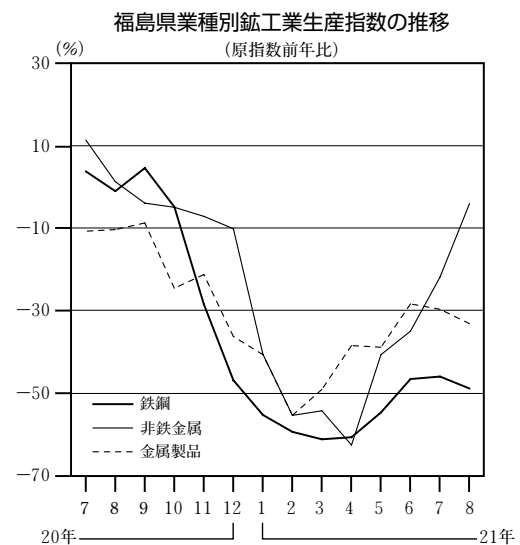
上昇および低下した主な業種別(季節調整済指数)では、非鉄金属工業で96.9(前月比+14.1%)、印刷業で115.4(同+13.1%)、パルプ・紙・紙加工品工業で92.9(同+11.0%)など10業種で



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

上昇した。一方、繊維工業で50.5（同△18.0%）、電気機械工業で70.0（同△14.6%）、情報通信機械工業で99.5（同△14.2%）など10業種で下降した。

化学 9月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、医薬品は好調だったものの、金属代替プラスチック、炭素繊維などは前年を下回る水準で推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。バリウム化合物（電子部品原料）の生産は、前年並みの水準で推移した。

鉄鋼・金属 9月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材ともほぼ前年並みの水準で推移した。建機用鋳造品の生産は、国内外向けとも低迷、前年を大幅に下回った。車両用鋳造品は、新幹線、JR中央線・京浜東北線の更新需要および海外需要に支えられ、安定して推移した。船舶用バルブ部品は前年を上回ったが、陸上プラント用バルブ部品は前年を下回る水準で推移した。

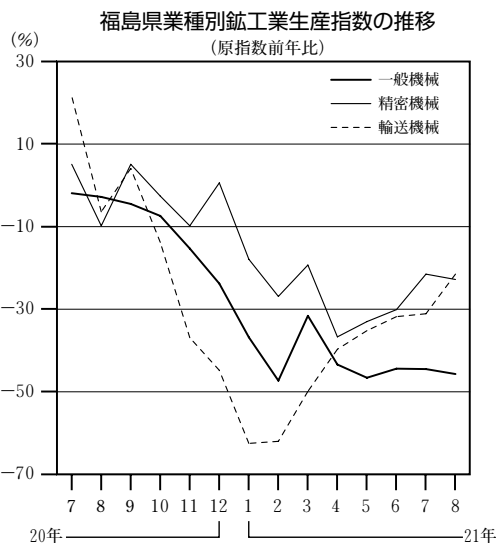
輸送用機械 9月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが持ち直してきているが、前年を下回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、ハイブリッドカー向けが好調、緩やかながらも持ち直しの動きが続いている。カーナビ・カーオーディオの生産は、前年の水準には届かないものの、持ち直しの動きが続いている。

電気機械 9月の変圧器の生産は堅調だったものの、配電盤、電熱炉、自動車モーターの生産は振るわず、前年を下回る水準で推移した。

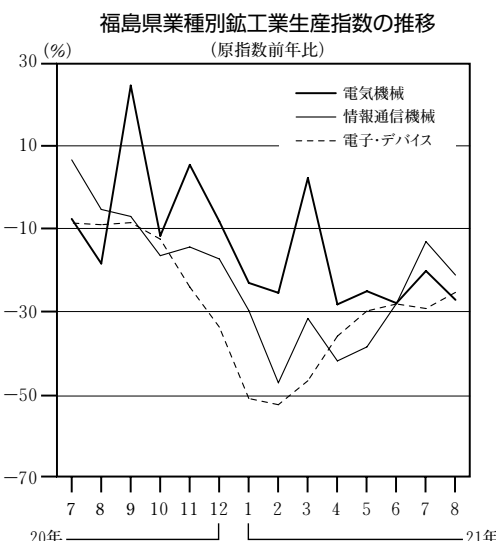
情報通信機械 9月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが低調、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 9月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品や携帯電話が堅調だったものの、主力のAV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、パソコン・OA、通信向けなどが低調に推移し、全体では前年を下回る水準となった。

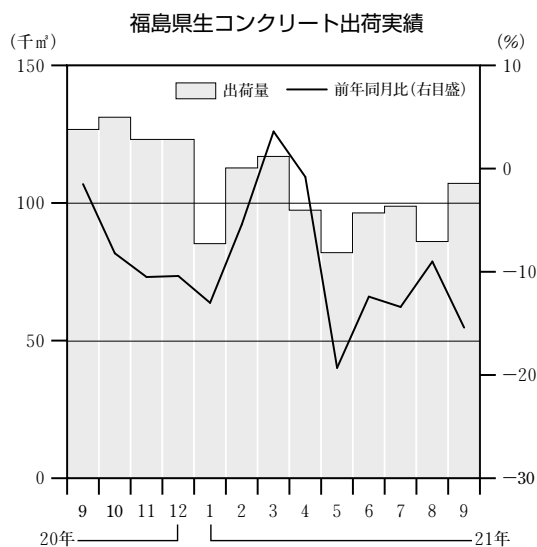
精密機械 9月の医療用内視鏡の生産は前年を下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、持ち直して来てはいるものの、前年を下回る水準で推移した。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

紙・紙加工品 9月の段ボールの生産は、IT製品向けが低迷、前年を下回る水準で推移した。感熱紙、インクジェット紙、ノーカーボン紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

窯業・土石 9月の生コンクリート出荷量は、全体で107,524m³（前年同月比△15.4%）と6ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県北地区で中央高速道路工事、相双地区で海岸保全施設工事等により、民需では相双地区で常磐高速道路工事、原発改修工事等により増加した。

清酒 9月の清酒移出数量は、1,213kl（前年同月比△17.6%）と12ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が392kl（同△2.3%）と6ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、821kl（同△23.4%）と12ヵ月連続で前年を下回った。

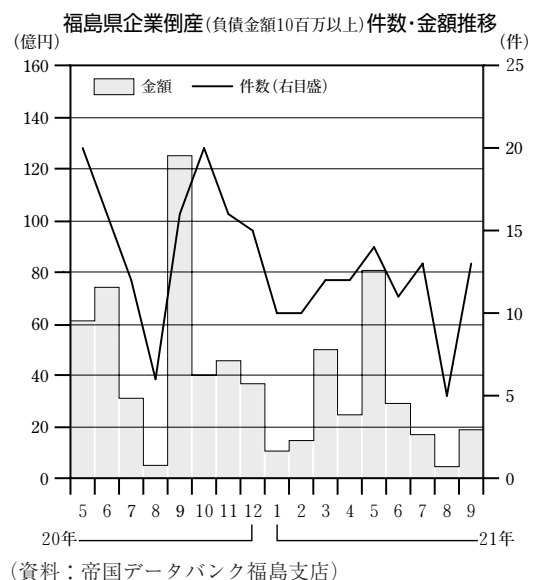
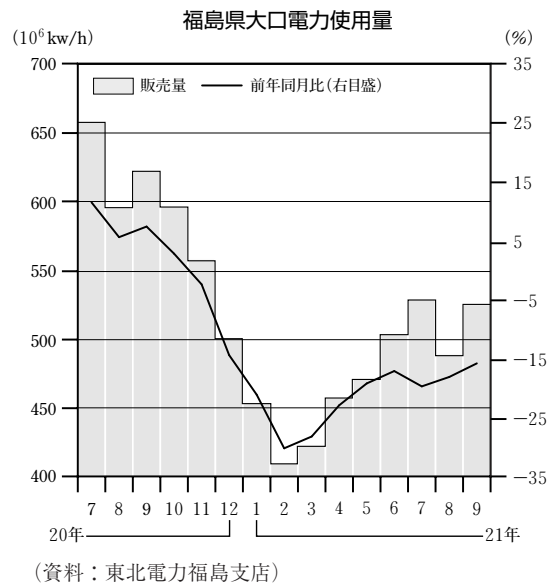
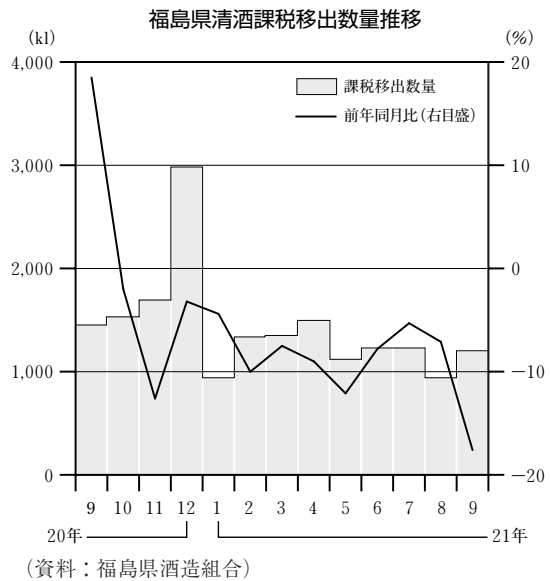
化合繊維物 9月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。ポリエステルも、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に、前年を下回る水準で推移した。

ニット 9月のニットの生産は、冬物生産がピークを迎えているが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調な水準で推移した。

大口電力 9月の大口電力販売量は、525百万kw/h（前年同月比△15.7%）と11ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で117百万kw/h（同△12.2%）、「電気機械」で116百万kw/h（前年同月比△11.3%）、「化学」で53百万kw/h（同△14.2%）、「輸送用機械」で48百万kw/h（同△27.9%）、「一般機械」で23百万kw/h（同△27.5%）、「紙・パルプ」で17百万kw/h（同△45.5%）となり、それぞれ前年を下回った。

—— 企業倒産 ——

企業倒産 9月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が13件（前年同月比△18.8%）となり、2ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は18億84百万円（同△84.9%）となり、2ヵ月



ぶりに前年を下回った。

なお、年間累計（2009年1月～9月）では、倒産件数が前年同期比24件減少し、100件（前年同期比△19.4%）、負債金額が同412億3百万円減少し、252億43百万円（同△62.0%）となっている。

9月の倒産主因別内訳は、13件全てが受注・販売不振、業界不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、製造業が4件、建設業が4件、小売業が3件、サービス業が2件となった。また、地区別内訳は、県北が5件、県南が3件、会津が3件、浜通りが2件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の9月末の預金残高は、6兆3,832億円（前年同月比+2.1%）と31ヵ月連続で前年を上回った。また、貸出金残高は、3兆8,437億円（同+0.8%）と15ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 9月の保証承諾は、件数が1,199件（前年同月比△2.8%）と10ヵ月ぶりに、保証金額が131億67百万円（同△5.0%）と12ヵ月ぶりに、それぞれ前年を下回った。一方、代位弁済は、件数が125件（同△0.8%）、金額が9億55百万円（同△4.6%）と、それぞれ3ヵ月連続で前年を下回った。

雇用動向

雇用動向 9月の新規求人数（原数値）は、8,276人（前年同月比△17.5%）と23ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、11,010件（同+3.5%）と13ヵ月連続で前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.67倍（前月比+0.01ポイント）と前月を上回った。原数値は0.75倍（前年同月比△0.19ポイント）と23ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.33倍（前月比±0.01ポイント）となり、昭和38年1月の統計開始以来過去最低の水準で推移している。原数値は0.36倍（前年同月比△0.30ポイント）と23ヵ月連続で前年を下回った。

